

カンボジアの盆踊り

カンボジア日本人会主催の盆踊り大会が10月18日、カンボジア日本人材開発センターで開かれた。当日はあいにくの雨模様の中、当地に滞在している日本人、外国人、多くのカンボジア人が集まり、踊りや屋台で日本文化を楽しんだ。会場を覗いてみると、盆踊りの飾りつけは日本風だが、流れてくる曲はポピュラー音楽ばかりで、腰の前で手を左右にひらひらさせるカンボジア式の踊りを皆踊っていた。ディスコのような青いスポットライトの照明もあり日本の盆踊りとはイメージが違ったが、皆楽しく踊っていて「これがカンボジアの盆踊りなんだ」と妙に納得した。



盆踊り大会の様子。舞台の上は日本的だが、下では皆カンボジア式に踊っている。

私は9月から日本人学校(土曜日だけ開かれる補習校)で中学生に数学を教えているので、学校の行事として参加した。小学校高学年と中学生が出店したかき氷屋は、子供たちが熱心に呼び込みをやり繁盛したが、氷を削るのは大人でないと無理で、校長他の男性陣が奮闘した。外地に暮らす子供たちにとって、皆で何かをやり遂げたこと、日本文化に触れたことが、きっと良い思い出になったことと思う。



子供たちが出店したかき氷屋。メニューやノボリも作り、お店やさんを楽しんだ。

地方で活躍している青年海外協力隊員も何人か上京し、それぞれの活動を宣伝していた。技術を教えるだけでなく、販路の開拓や支援者を増やすことも大事な活動である。



カンボジアでの教育支援について

カンボジアでは現在90%以上の子供が小学校に入学できるようになったが、中学は60%、高校は23%とまだまだ初等中等教育の拡充が必要である。また6月末に全国一斉の高校卒業試験があったが、政府の発表では約9万人が受験しており、これは対象年齢層の24%に当たり、上の数値とほぼ合っている。

協力隊員の共同出店。手前はタケオ州の農協のコメの産直販売、奥はカンポット州の職業訓練校の学生が織った木綿のクロマー(カンボジア式スカーフ)。

私の職場は大学中心の高等教育なので、「貧しくて学校へ行けない底辺の人たちを支援するのも大事だが、国の中核となる中流層を育てることが国造りに貢献する」という想いで活動している。先日、日本人の教育関係者の集まりで、学位は金で買える国なので高等教育には興味がないと乱暴な意見をいう人がいたが、それは偏見だ。たしかに役人へのワイロ

や、試験でのカンニングが摘発された話をニュースで聞くが、それは綱紀肅正に政府が取り組み表面化したものだと思う。確かに日本と比べると、まだ社会的ルールを守る意識が低いのは私も感じるが、毎年数万人が大学へ進学する国なので、ほとんどの学生は真面目に勉強しているはずだ。

9月下旬に私の学校で卒業試験があり、昼間部 103 人、夜間部 146 人の大学生が受験した。平均年齢は昼間部 23.9 才、夜間部 28.5 才と年齢差がある。昼間部はすべて 20 代だが、夜間部では 30 才以上が 44 人(30.1%)おり、30 代、40 代の方は若い時に教育機会に恵まれなかったのだと思う。カンボジアの社会では大卒の資格がより高い地位を得るために必要ということはあるが、4 年半(学位を貰うまで 5 年間)夜学に通い続けた努力には頭が下がる。卒業発表を聞いて、カンボジア人は努力家が多いという印象を受けた。

